

附属釧路中学校 平和宣言

私たちはつい1ヶ月前まで、原爆の恐ろしさについて全くとっていいほど知りませんでした。そして今回長崎を訪れる機会をいただき、原爆について学びました。そのなかで何十万人という方が原爆投下により苦しんだという事実を知り、私たちは大変驚きました。また、昨年から今年にかけ、3355名もの方が新たに原爆死没者名簿に書き加えられたことを学び、「原爆投下」という事実は、昔のことではなく、今もなお続いているものだと感じました。

原爆により人々の命を失っただけではなく、大切な人を失い、悲しみに暮れた人もたくさんいます。このようなことを改めて感じると、自分たちがとても幸福だと思うのと同時に、自分たちの心の中からこの事実が薄れてしまっているのではないかと感じてしまいます。たった1つだけでも私たちが想像できないほどの威力を放つ核兵器が、世界には約1万7千個もあるのです。もしこれらが使われるようなことがあったら……。想像したくもありません。このような未来は絶対につくってはいけません。これからの未来を担う私たちが行動しなければいけません。そう心から思いました。

若い人たちの夢が奪われ、ある人は孤独に耐え、またある人は大切な人を一瞬にして奪われてしまう。そんな世界を私たちは望みません。69年前に落とされた原爆はそんな願いをあっという間に奪い取りました。そんな悲劇をもう二度と繰り返さない。

原爆について知ってもらうこと。人事ではなく自分事として平和について考えていくこと。それが大切です。日本全国に知ってもらい、考えてもらいたい。一人一人が平和への意識を変えましょう。そして世界に広げ、世界平和を目指していきましょう。

本当に未来の平和を望み、いち早くこの世に平和が訪れることを望むのであれば、私たちの「力」を平和のために使うことができるでしょう。きっと、私たちが今当たり前になっている、笑ったり、泣いたり、怒ったり、喜んだりすることができるでしょう。それが世界中でできれば「平和」なのだと私たちは思います。

そのためにも、我々附中生は、長崎について学んだこと、非核への思い、「核兵器は恐ろしい、核兵器をなくしてほしい」という私たちの思いを家族や友人、後輩、これからの世代に伝えます。また、釧路に戻った後もこの世界がどうしたら平和に近づけられるのか、私たちが他にできることはないのかを考え続けます。

平成26年12月2日

北海道教育大学附属釧路中学校 第45期生